terror の語法・意味の変化
――新聞アーカイブ・コーパスにおける使用実態調査――

加野まきみ
京都産業大学

【要旨】 *terror* の最も古い意味である「非常な恐怖」の意味から派生し，今日のように *terrorism* と同義で用いられるようになるまでの語法･意味の変化を辞書，新聞アーカイブ，コーパスにより明らかにした。一般的に「恐怖状態を引き起こす行為」という意味から，特に政治的に用いられるようになったのはフランス革命時の“The Terror”「恐怖政治」で，その後，独裁政権による人民の抑圧を“reign of terror”と呼んだ。さらに現体制による *terror* から，反体制派による体制崩壊を目指す *terror* への変身をとげ，個人的な活動から組織的活動へ，国内におけるテロから国際テロへと範囲を広げていく。新聞アーカイブによる調査では，2001 年「対テロ戦争」開始以前と以降で使用頻度，使用される意味が大きく異なること，*war on terror* と *war on terrorism* の使用時期のピークの違い，英米紙で使用の傾向がことなることなどを，年代を追って解明した。コーパスによる調査では，心理的恐怖を表す意味で多く使われていた *terror* が，近年その意味に加えて，*terrorism* と同義で用いられることが多くなり，共起語，語法，類義語が大きく変化し，*terrorism* と非常に類似した文法パタンで使用されている様子を描き出し，いかに *terror* が語法的･意味的に *terrorism* に近くなっているかを明示した *。

キーワード： BNC，ukWaC，Sketch Engine，Global War on Terror，対テロ戦争

1. はじめに

ブッシュ前大統領が“Global War on Terror”を宣言したのは 2001 年 9 月 20 日のことであった。連邦上下両院合同会議での演説で，“Our war on terror begins with al Qaeda, but it does not end there. It will not end until every terrorist group of global reach has been found, stopped and defeated.”（われわれのテロとの戦いはアルカイダに始まる。しかし，それで終わりではない。世界中のすべてのテロ組織を探し出し，阻止し，撲滅するまで，われわれの戦いは終わらない。）と述べた。それ以来，*Global War on Terror*（対テロ世界戦争）というスローガンのみならず，*fight against terror*（テロとの戦い），*acts of terror*（テロ行為）などの表現中で，*terror* という語が *terrorism* の意味で使われることに，はじめは違和感を持っていた人も多かったかと思うが，やが

* 本研究は科学研究費　若手（B）（課題番号：19720116）の助成を受けたものである。また，本研究の一部は第 11 回 JACET 英語辞書研究会主催ワークショップ（2010 年 3 月 27 日，東洋大学）で発表し，その後加筆・修正した。論文の執筆にあたり，様々なアイデア・意見を提供してくれた同僚に感謝したい。多くの貴重な指摘・改善のためのアドバイスをくださった査読者の方にもここで感謝の意を申し述べたい。

て当たり前のように耳にするようになってきた。

日本語でいう「テロ」とは，当然外来語「テロリズム（←terrorism）」の略であるが，英語でも“Global War on Terror”の開始以降，*terrorism* ではなく *terror* という語でテロ行為（あるいはテロ行為者）を指すようになったこと，それが単なる省略ではないことが指摘されている（Numberg 2004 など）。本稿では，この *terror* の新旧の語法・意味について電子化された資料により解明していく。まずは“Global War on Terror”以前の *terror* の用法を明らかにし，それ以降の使用に実際にどのような変化が見られるのかを明らかにし，*terror* と *terrorism* は語法・意味・使用において，どのような共通点・相違点があるのか，またその共通点・相違点は“Global War on Terror”開始前後でどのように変化したのかを詳細に論じる。本研究では様々な資料を使用し，比較・分析を行う。元来それぞれの語がどのような意味で使用されてきたのか，意味分類を明らかにするには各種英英・英和辞典を用いる。両語の使用実態の変遷については年代を遡れる新聞アーカイブ（*USA Today*, *The Washington Post*, *The Times*）を検索し，その傾向を探る。詳細な語法や意味分析にはコーパスを用いる。“Global War on Terror”開始前の使用実態を探るには 2000 年以前のテクストを収録した British National Corpus を，その後の使用実態は ukWaC というコーパスを用いる。Sketch Engine と呼ばれるコーパス検索・分析ツールの様々な機能を用い，それぞれの語の共起語や文法パタンを分析し，2 語間での共通点・相違点を描写する。

このように様々な資料を使用し，比較を行うことによって，このような語法研究にどのような資料・ツールが利用可能なのか，またその有効性・問題点などについても論じる。

2. 先行研究

ブッシュ政権下での“Global War on Terror”開始以降，*terrorism* と同義での *terror* の使用については，たびたび言及されている。

Numberg（2004）は，9.11 アメリカ同時多発テロ直後からの一年では政府は敵を指すのに *terrorism* を *terror* よりも 2 倍多く使用していたが，2003 年になってその割合が逆転したこと，*terror* は一見 *terrorism* の短縮形として使われているようではあるが，それ以上の複雑な意味を持っている，つまりは「テロ行為」自体とそれによってテロリストが生み出そうとしている「恐怖」の両方を思い起こさせるということを指摘している。さらにはサダム・フセイン政権を“Terror Regime”と呼ぶことで，直接結びつかないサダム・フセインと 9.11 同時多発テロとが *terror* という語によって結びついているように見せたと指摘した。

Lakoff（2005）は，ブッシュ政権が当初用いた“war on terror”と，2005 年 7 月のロンドン同時爆破テロ以降米政府が用いようとした“global struggle against violent extremism”の表現中の語句がいかに米政府によって注意深く選ばれた操作的な言葉であるかを指摘した。その中で，「*terror* は国家でも人民でもなく，感情とそれを作り上げる行為のことであるから，*terror* は武器で破壊することも，平和条約締結

で終わらせることもできない。」したがって，“war on terror”という戦時下に大統領が持つ絶対的権力にも終わりがないという意味で，ブッシュ政権にとって都合のいい言葉であったことを指摘した。

Crichton（2007）は，9.11 以降のブッシュ大統領（当時）の演説を分析し，*terror* が行為者（actor），受動者（goal）として，名詞句（nominal group）中で，どのように使用されているかを明らかにし，*terror* が *terrorism*, *terrorist(s)* と交換可能な語になり，抽象的な動作主として擬人化されていることを指摘した。

しかし，*terrorism* と同義の *terror* について論じられたのは 9.11 以降がはじめてであったわけではない。すでに Thornton（1964）は，*terror* を“subjective terror”（個人や集団内に恐怖や不安が引き起こされた状態）と“objective terror”（個人や集団に恐怖状態を引き起こす行為）の 2 つに分け，後者の意味で *terror* は *terrorism* と交換可能な語である，合理的に（なんらかの政治的目的を達成するために）用いられるツールであると述べ，詳細に定義した。さらに Thornton（1964）は *terror* を“enforcement terror”（権力の座にあるものが，それに抵抗する者を抑圧するために極端な手段を用いること）と“agitational terror”（現体制に反対する者が体制の崩壊・自らが権力を手に入れることを望んで行うテロ）に分け，後者に焦点を絞って論じている。この点においては，それまで主に用いられる意味であった“reign of terror”（恐怖政治）よりも新しい *terror* の意味について論じていると言えるが，*terror* を国内の政治体制に変化をもたらすための暴力の使用・脅しに限定し，近年頻繁に使用されている国際的な武力衝突は排除しているという点では，現在の *terror* の考え方とまったく一致しているわけではない。

これらの *terror* についての言及は必ずしも客観的な調査に基づいているわけではない。本稿ではこれらの言及を新聞アーカイブやコーパスを用いてより客観的に分析し，より詳細に・網羅的に *terror* と *terrorism* の意味・語法やその変遷を示す。

3. 英英・英和辞典における記述と定義

本節では，どのような意味で *terror* や *terrorism* を定義するのかを決定するにあたり，英英辞典，英和辞典では *terror* と *terrorism* がどのように定義されているのかを調査した結果を述べる。調査に使用した辞書は，使用した略称と共に参考文献に示す。

3.1. 辞書の記述：terrorism

OED2v4 では，*terrorism* は“A system of terror.”と定義され，第 1 義に「フランス革命時の恐怖政治」のこと（“Government by intimidation as directed and carried out by the party in power in France during the Revolution of 1789–94”）が記述され，第 2 義にはより一般的に「脅迫という方策をとること」（“the employment of methods of intimidation”），「恐怖を引き起こす事実，恐怖に陥れられている状態」（“the fact of terrorizing or condition of being terrorized”）と記述されているが，*violence* のような直

接的に「暴力行為」を表す表現は定義文中にはない。

他の英英辞典では，OED2v4 と記述が大きく異なる。語義に *violent*, *political*, *government* などの表現を使っているものが多い。どの辞書にどの表現が用いられているか表 1 に示す。フランス革命時代の「恐怖政治」を語義に挙げているのは OED2v4, SOED のみで，SOED には *arch.* のラベルがつけられ，古い用法であることが示されている。また「テロにより引き起こされる恐怖状態」を語義に挙げているのも，OED2v4, SOED のみである。*violence* という語を語義に含まないのは OED2v4 だけで，逆に（暴力行為への）脅し（*intimidation, threat*）を含まない辞書は 8 辞書にものぼる。テロ行為を *unofficial*, *unorganized* と描写しているのは SOED と ODE である。*political aims/purposes* など「政治目的」を達成するための行為であることを示す表現を含んでいるのは，OED2v4 以外すべてで，「政府を動かす」（*force government to do*）という表現を含む辞書には OALD，LDOCE，COBUILD があるが，一般の民衆が対象になることを述べているのは LDOCE と LAAD のみである。LDOCE, LAAD, COBUILD は *bombing*, *shooting*, *murder* など具体的な暴力行為を挙げて *terrorism* を説明している。

表 1　英英辞典による *terrorism* の定義

	OED2v4	SOED	NOAD	ODE	OALD	LDOCE	LAAD	MED	CALD	CDAE	COBUILD	MWLD
Year	2009	2007	2005	2003	2005	2007	2007	2007	2008	2008	2006	2008
the 'Terror'	○	○										
intimidation/threats	○	○	○	○					○			
being terrorized	○	○										
violence		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
unofficial, unorganized		○		○								
political aims/purposes		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
force government					○	○					○	
against ordinary people						○	○					
bombing						○	○				○	
shooting						○	○					
kidnapping						○	○					
murder											○	

次に，英和辞典の記述を表 2 にまとめる。すべての辞書で，*terrorism* を「テロ」,「テロリズム」，あるいは「暴力行為」と定義し，OED2v4 などに見られた *intimidation*（脅

し）について言及している辞書はほとんどなく，『リーダーズ』は暴力行為が「組織的」であると述べている。政治的手段として使われることに言及しているのは『新グローバル 2』と『ウィズダム 2』のみである。一方，英英辞典には OED2v4, SOED にしか見られなかった「（テロによって引き起こされる）恐怖状態」を語義に含んでいる辞書は半数以上，SOED で古い用法とされた「恐怖政治」の意味もほとんどの辞書に含まれていた。英英学習者用辞書と比べると，英和辞典にはやや歴史的な意味まで含まれていることがわかる。これらの辞書の多くに共有されている表現をまとめて，本稿では *terrorism* の定義を，「主に政治的目的を達成するための，爆破・殺人などの暴力行為」とする。

表 2　英和辞典による *terrorism* の定義

	リーダーズ	ランダムハウス	ジーニアス大	プログレ4	アンカーコズミカ	新グローバル2	ウィズダム2	ロングマン英和	ジーニアス4
出版年	2000	1993	2001	2002	2007	2001	2006	2007	2006
恐怖政治	○	○	○	○	○	○	○		
脅迫	○								
恐怖状態	○	○	○	○					○
暴力（テロ）	○	○			○	○	○	○	○
組織的	○								
政治手段						○	○		
反政府			○						

3.2. 辞書の記述：*terror*

次に *terror* の辞書の記述について述べる。OED2v4 では，*terror* の意味を（1）のように大きく 5 つに分けている。

（1）　1.　The state of being terrified or greatly frightened; intense fear, fright, or dread.（非常な恐怖）

2a.　The action or quality of causing dread; terrific quality, terribleness（恐怖状態，恐怖の的）; this action or quality in fiction, “novel (or tale) of terror”（恐怖小説）; a thing or person that excites terror; something terrifying（恐怖を起こさせる人・もの）

2b.　A person (occas., a thing) fancied to excite terror; esp. a troublesome child; “holy terror”（困り者，いたずらっ子）

3.　“king of terrors” Death personified.（死の擬人化）

4. “reign of terror” a state of things in which the general community live in dread of death or outrage（恐怖政治）（中略）Hence, without article or pl., the use of organized intimidation, terrorism.（組織的な威嚇・脅迫，テロリズム）
5. *comb.*（複合語：attributive, objective, instrumental, special comb）

第 4 義「恐怖政治」の最後に *terrorism* と同義であると述べられているが，*terrorism* の語義記述同様，*terror* の項にも *violence* のように直接的に暴力行為であることを表す語句は使用されていない。しかも，用例を見てみると，Thornton（1964）が言うところの“enforcement terror”（権力の座にあるものが，それに抵抗する者を抑圧すること）についてがほとんどで，“agitational terror”（現体制に反対する者が体制の崩壊・自らが権力を手に入れるための行動）の例はわずかである。いずれも国内の政治体制によるものか，それに変化をもたらしたい集団の脅迫・暴力についてで，現在最も頻繁に用いられているような国際的テロ集団の活動についての用例は見られない。(2) に例を挙げる（下線は筆者による）。

(2)
a. 1951 H. Arendt Burden of Our Time i. i. 6 <u>Terror</u> as we know it today strikes without any preliminary provocation.（= Nazi などの modern dictatorship）
b. 1977 P. Johnson Enemies of Society xviii. 241 Thanks to their use of <u>terror</u>, they [sc. the Assassins] often controlled local authorities, and forced governments into compliance or impotence.（= 政府に行動を求める集団の行動）
c. 1978 Encounter July 15/1 Anyone who cannot see and appreciate the true difference between Russia today and Russia at the height of the Stalinist <u>terror</u> has a very poor idea of one or other of these phenomena.（=「恐怖政治」）

OED2v4 では第 5 義として複合語を多く挙げている。その中には *terrorism* と同義で用いられている *terror* が含まれている。*terror-bombing, terror raid, terror act/group/organization/régime/tactics* がそれに当たる。これらの複合語としては，古くは 1940 年代から *terrorism* と同義で用いられていることが読み取れる。

その他の英英辞典，英和辞典にはこれらの語義がどのように収録されているのか，調査した（表 3）。特徴的なのは OALD 以外の Oxford 系の英英辞典では *violent action* という意味の記述がないということである。一方 Oxford 系と COBUILD 以外の辞書では *intimidation* の意味の記述はない（ただし，COBUILD では *intimidation* ではなく，*threat* という語を使用している）。*political aims/purposes* など，政治的目的達成のためであるということが記述されている辞書は半数以上にのぼる。同義語あるいは類義語として *terrorism* が挙げられている辞書も多い。

表 3　英英辞典による *terror* の定義

	OED2v4	SOED	NOAD	ODE	OALD	LDOCE	LAAD	MED	CALD	CDAE	COBUILD	MWLD
Year	2009	2007	2005	2003	2005	2007	2007	2007	2008	2008	2006	2008
intense fear	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
frightening situation	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○
holy terror		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
king of terrors	○	△[1]										
reign of terror[2]	◎	○	◎	○	○	○	△	△	△	×	○	○
intimidation/threat	○[3]	○[4]	○	○	○						○	
violent action					○	○	○	○[5]	○	○	○	○[6]
political aim			○	○	○	○	○	○				○
*terrorism の類語関係	○	○	×	×	○	○	○	×	×	×	×	△[7]

英和辞典での記述は表 4 にまとめた。英和辞典では，脅し（intimidation）について語義に含んでいる辞書はなく，政治目的であるという記述があるのは『ウィズダム 2』のみで，英英辞典の傾向と大きく異なる。また，*terrorism* との類語関係の表示があるのは 4 辞書にとどまったが，どの辞書にも「テロ」という日本語が語義に記述されているので，表示がなくても，同義であるということは明らかで，記述の必要性は少ない。

OED2v4 などの大辞典で記述に違いが見られるものの，すべての学習者用辞書が暴力行為としての *terror* を記述していることが明らかになった。次節では，これらが現在実際どのように使用されているのか明らかにするため，Google 検索や Web 上の情報での調査をした結果を述べる。

[1] king of terrors の項への参照あり。
[2] ラベル◎：語義記述あり，参照あり，○：参照あり，△：参照なし，立項あり，×：立項なし。
[3] “organized” の記述あり。
[4] “organized” の記述あり。
[5] “mainly journalism” のラベルあり。
[6] “person/group/government” の記述あり。
[7] “war on terror[=terrorism]” とだけ記述。

表 4　英和辞典による *terror* の定義

	リーダーズ	ランダムハウス	ジーニアス大	プログレ4	アンカーコズミカ	新グローバル2	ウィズダム2	ロングマン英和	ジーニアス4
出版年	2000	1993	2001	2002	2007	2001	2006	2007	2006
非常な恐怖	○	○	○	○	○	○	○	○	○
恐怖状態	○	○	○	○	○	○	○	○	○
“holy terror”	○	○	○	○	○	○	○	○	○
“king of terrors”	△[8]	○		○					
“reign of terror[9]”	◎	◎	◎	◎[10]	△	△	△	△	◎
脅迫									
テロ，暴力行為	○	○	○	○	○[11]	○	○	○	○
政治目的							○		
*terrorismの類語関係					○	○	○	○	

4. Web を用いた基礎調査

4.1. Google 検索による現状概観

はじめに，Google による簡易な調査の結果を述べる。この調査では，検索対象にする言語を「英語」，検索対象にする地域を「アメリカ合衆国」としてすべての検索を行った（検索日：2001 年 3 月 5 日）。*terror*, *terrorism* とそれらを含む表現を検索した結果を表 5 に示す。

表 5　Google での *terror*, *terrorism* の検索結果

word searched	hit count	phrase searched	hit count
“terror”	55,300,000	“war on terror”	5,140,000
“terrors”	1,740,000	“war on terrorism”	1,770,000
“terrorism”	28,000,000	“fight against terror”	52,500
“terrorisms”	65,000	“fight against terrorism”	294,000
“terrorist”	25,500,000	“fight terror”	126,000
“terrorists”	13,600,000	“fight terrorism”	327,000

[8] 別見出しとして立項あり。
[9] 語義記述あり，参照あり：◎，参照あり：○，参照なし，立項あり：△，立項なし：×
[10] “the Terror” の記述のみ。
[11]「主にマスコミ」のラベルあり。

terror には今回対象としている *terrorism* と同義以外の意味での使用も含まれているため，単純にこれらの語のヒット数だけで比較することはできないが，*war on* … や *fight (against)* … のような *terror* が *terrorism* と同義で用いられると思われる語との組み合わせでフレーズ検索をすると，ある傾向が見られる。*war on* … の場合は *terrorism* より *terror* が約 3 倍も多く用いられており，現在いかに多用されているかがわかる。*fight (against)* … の表現についてはいずれも *terrorism* の方が頻度が高くなっている。*terror* は“war on terror”という固定されたフレーズで特に多く使用されており，*terrorism*を用いる他の表現までをも取って代わるという現象は見られない。

4.2. Web 上に見られる *terror/terrorism*

Web 上で見られる具体的な使用例をいくつか紹介する。ブッシュ大統領（当時）が“war on terror”を宣言した演説については冒頭で紹介したが，その後の短い間にどのように使用したかをブッシュ・小泉共同記者会見のスクリプトから見てみたい。9.11 直後の 2 回のブッシュ前大統領，小泉元首相の共同記者会見で，すでに *terror* と *terrorism* の使用に変化が見られる。9 月 25 日のホワイトハウスでの記者会見では，ブッシュ，小泉ともに *fight terrorism* という表現を用い，*terror* という単語は使用していない（太字は筆者による）。

(3)　Bush: The Prime Minister and I had a wide-ranging discussion about ways that we can cooperate with each other to **fight global terrorism**.
Koizumi: We Japanese are ready to stand by the United States to **fight terrorism**. We could make sure of this global objective. We must **fight terrorism** with a determination and a patience.（Washington File より抜粋）

しかし，その約一ヶ月後の 10 月 22 日の上海での記者会見では，小泉は *terrorism* という語を使い続けているにもかかわらず，ブッシュは *terrorism* を使わず，*terror* を使用している。しかも，前回とさらに異なるのは，*fight terrorism* という動詞句ではなく，*the/our fight against terror, a long struggle against terror* という名詞句で使用しているという点である。

(4)　Bush: It's an honor to be with our -- with my friend. And we have no stronger friend in the **fight against terror** than the Prime Minister of Japan. I have been impressed by his resolve and his determination.
Bush: I think the American people understand that ours will be a long **struggle against terror.**
Bush: The Prime Minister of Japan understands how important this cause is. He's a strong friend and ally in our **fight against terror**.
Koizumi: I appreciate your strong leadership to **fight terrorism**. Your determination and the patience, I appreciate.（Washington File より抜粋）

この二つの共同記者会見の間にあったのは, 10 月 8 日のアフガン空爆開始である。この使用の変化はブッシュ政権が“Global War on Terror”へ突き進み始めたことの表れといえるだろう。

先行研究では米政府による *terror* の使用についていくつかの指摘がなされていることは 2 節で述べた（Numberg 2004, Lakoff 2005）。*terror* の使用頻度が増えたのは“war on terror”を宣言した直後ではないという点，しかも 2005 年 7 月のロンドン同時爆破テロ以降は米政府が“war on terror”という言い方を控えるようになったという点である。さらに，2009 年 1 月オバマ政権が誕生してからは，オバマ大統領はこの表現をほとんど用いず，同年三月には作戦名も“Global War on Terror (GWOT)”から“Overseas Contingency Operation (OCO)”へと公式に変更され，国防省にも使用を変更するよう要請している（*The Washington Post*, March, 25, 2009）。

さらにさかのぼると，“war on terrorism”という表現は 1980 年代に当時の大統領ロナルド・レーガンが（リビアやニカラグアに対する軍事行動を指す表現として）よく使用していたという記述もある（*TIME*, Mar. 18, 2010）。

もう一つの疑問としては，“war on terror”開始前後で *terrorism* と呼ばれる事象に変化があるのではないかということが挙げられる。今日使われている *terror/terrorism* にはイスラム教過激派・中東のイメージが強く結びついているので，それ以外のテロ攻撃に *terror/terrorism* が使われることが少なくなってきているのではないだろうか。ここで，中絶反対派（anti-abortionist）による過激な暴力行為を例に挙げる。1996 年アトランタオリンピック公園爆破事件が起きた。事件発生当初は中絶反対派による *terror, terrorism, terrorist act* とメディアは伝えた。

(5)　TERROR'S VENUE

But this determination not to let a **terrorist act** obliterate the Olympic spirit was also a stance against an unwanted future—against an awful time when **terrorism** might become woven into the fabric of American life.

“The bombing was an evil act of **terror**,” President Clinton said Saturday, … (*TIME*, Aug. 05, 1996)

しかし，2005 年犯人に判決が言い渡されたときにはこの爆破事件をテロとは呼んでいない。

(6)　Anti-abortionist who set off Olympic nail bomb is jailed for life

The bomber responsible for the 1996 Olympics nail bomb in Atlanta, which killed one woman and injured more than a hundred people, apologised to victims yesterday before being jailed for life. (*The Independent*, August 23, 2005)

ただし，anti-abortionist の過激な攻撃を *terror* と呼んで，*campaign* や *tactics* などの前に置いて，複合語として用いられていることはある。これは *terror* の新しい意味というわけではなく，OED2v4 にも掲載されている従来からの複合語の用法で，6 節

で述べる新しいコーパス調査の結果でも述べるとおり，現在も続いている用法であることが確認できる。

(7)　US anti-abortionists' **terror campaign** claims another life
The **terror tactics** against abortion providers go hand-in-hand with the anti-abortion movement's political campaign for laws that ban abortion. (*Direct Action*, July 13, 2009)

4.3. 新聞アーカイブによる検証事項

前節では Web 上で使用されている *terror/terrorism* を調査した結果，浮かび上がる疑問をいくつか述べた。(8) にそれらをまとめて挙げ，新聞アーカイブで検証する課題とする。

(8)
a. Google 検索で見られたような *terror* と *terrorism* の使用の差が見られるか。
b. 2003 年以降の *terrorism* から *terror* への使用頻度の逆転現象は見られるか。
c. 2005 年以降の *war on terror* の使用回数減少は見られるか。
d. 2009 年オバマ政権誕生以降の *war on terror* 使用回数は変化したか。
e. *war on terrorism* という表現が 1980 年代，レーガン大統領時代に使用されていたか。
f. 9.11 以降，中絶反対派の爆破行動など，イスラム圏以外のテロ集団の活動について *terror/terrorism* が使用されるか。

5 節では，新聞アーカイブを用い，これらの疑問を解き明かしていく。

5. 新聞アーカイブを用いた使用頻度調査

新聞アーカイブではテクストが書かれた年月日を特定することができるため，ある語句の使用の変遷をたどる目的で使用すると非常に有効である。今回はアメリカで発行されている新聞二紙（全国紙 *USA Today* と主要紙 *The Washington Post*）と，イギリスで発行されている新聞一紙（*The Times*）を調査対象とした。“war on terror” がアメリカから発信された表現であるにもかかわらず，イギリスの新聞も調査の対象としたのは，単純にイギリスメディアで用いられる傾向にアメリカメディアとの違いがあるかどうかを確認するためでもあるが，6 節のコーパス調査で調査対象とする新旧コーパスが 2 つともイギリス英語を中心としたコーパスであるため，新聞の調査でも同等の英語を取り上げる必要があると考えたためである。検索には LexisNexis Academic（http://web.lexis-nexis.com/）を使用した。

5.1. *war on terror* vs. *war on terrorism*

各新聞アーカイブで *war on terror* と *war on terrorism* を検索した結果を以下に述べる。表 6 はそれぞれの表現の出現総数を示している。各アーカイブで収蔵開始年も総語数も異なるため，アーカイブ間で頻度を直接比較することはできないが，1 つ顕著な違いを見ることができる。それは，アメリカで発行されている新聞二紙とイ

ギリスで発行されている *The Times* の間では，2 つの表現の頻度が全く異なるということである。米二紙では *war on terrorism* が *war on terror* の約 2 倍のヒット数があるのに対して，*The Times* では *war on terror* が *war on terrorism* の約 6 倍も多く使用されている。米紙のこの結果は *war on terror* の使用が *war on terrorism* の 2 倍以上あった Google での検索結果と全く逆の結果となっている。

表 6　*war on* … in Newspaper Archives

	USA Today	The Washington Post	The Times
Years Covered	1989 年～	1977 年～	1985 年～
“war on terror”	932	2111	4389
“war on terrorism”	1860	4556	737

一年ごとの頻度を見てみると（図 1–3），より詳細な傾向を見ることができる。どの紙面でも，2001 年に *war on terror(ism)* の爆発的な使用が始まり，いずれの表現も 2005 年からは減少傾向にあると言える。米二紙の傾向は非常に似ており，*war on terrorism* の使用のピークは 2002 年にある一方で，*war on terror* のピークは 2004 年にある。これは Numberg の逆転現象とまでは言えないにしても，*terror* の使用が 9.11 直後よりも遅れて増加しているのは事実である。しかも，ここ数年間（*USA Today* では 2006 年，*The Washington Post* では 2007 年より）は両表現の使用頻度自体，減少傾向にあるが, *war on terrorism* より *war on terror* のほうがより多く使われている。4.1 節での Google の調査結果と一致する方向の変化だと言える。一方，米二紙と大きく異なり，*The Times* では 9.11 発生直後から一貫して *war on terror* が使用され，*war on terrorism* の使用は非常に少ないことが，図 3 から明らかである。いずれのアーカイブからもレーガン政権当時（1981 年～ 1989 年の間）の *war on terrorism* の使用が認められるが，1990 年代のクリントン政権中にはそれ以上の使用が確認できる。

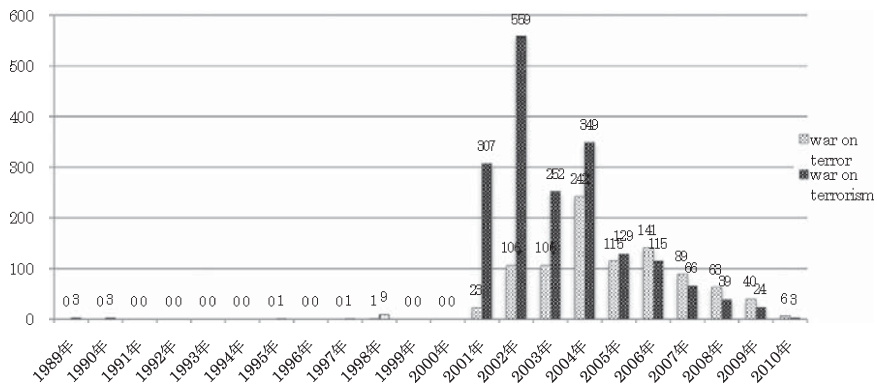

図 1　*war on terror/terrorism* in *USA Today* by Year

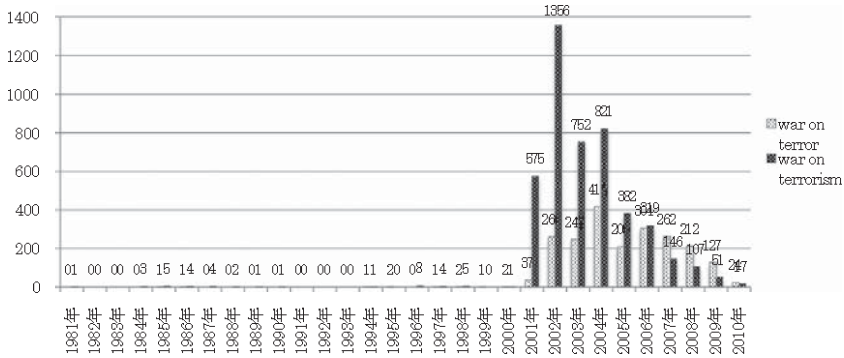

図 2　*war on terror/terrorism* in The *Washington Post* by Year

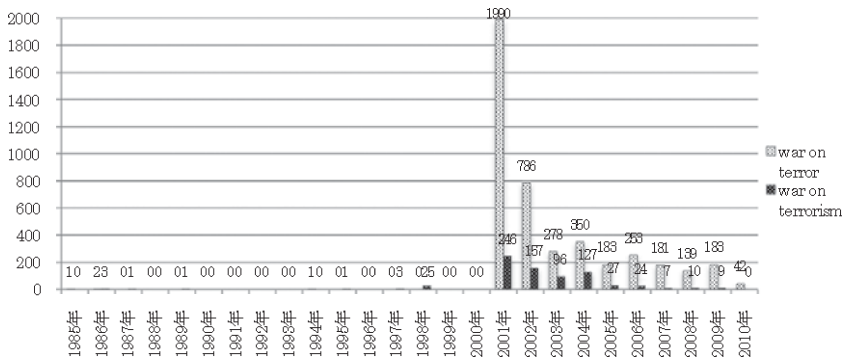

図 3　*war on terror/terrorism* in *The Times* by Year

5.2. *fight (against) terror/terrorism*

各新聞アーカイブで，*fight (against)* … というフレーズでの *terror/terrorism* の表現を検索した結果を表 7 に示す。傾向としては *terror* の頻度が低いという Google で行った単純な検索と同様の結果を示している。*war on* … では逆の傾向を示した *The Times* も，*fight (against)* … に関しては他二紙と同じ傾向を示している。

表 7　*war on terror/terrorism* in *The Times* by Year

Total	USA Today	The Washington Post	The Times
Years Covered	1989 年～	1977 年～	1985 年～
fight against terror	17	71	65
fight against terrorism	143	1042	671
fight terror	41	136	75
fight terrorism	260	778	265

一年ごとの各表現の使用の変化（図 4–6）を見ても，いずれの表現でも *terrorism* が *terror* よりも常に多く用いられているのがわかる。*USA Today* だけは動詞句 *fight terrorism* が，大多数が名詞句だと思われる *fight against terrorism* よりも多い。また，*war on …* の表現に見られたような，*terror* のピークが遅れてやってくるという傾向は顕著には見られない。レーガン政権時代の *terrorism* の使用も他の時代よりもやや多く見られるが，米二紙では，クリントン政権中の 1995 年～ 1999 年の方がより多く *terrorism* が使われている。英紙の場合には，イギリスでは常に IRA による独立紛争というテロ問題を抱えてきたので，“fight against terrorism”は決して新しいことではない。1986 年から 1988 年に多くの使用が見られるが，これは特にレーガン政権の使用を反映したものではなく，検索された記事の多くは IRA あるいはヨーロッパ国内のテロ行為，テロ対策についてである。

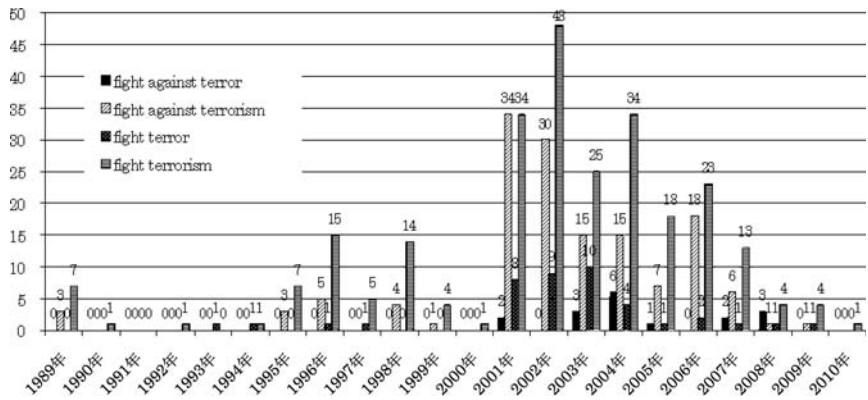

図 4　*fight (against) terror/terrorism* in *USA Today* by Year

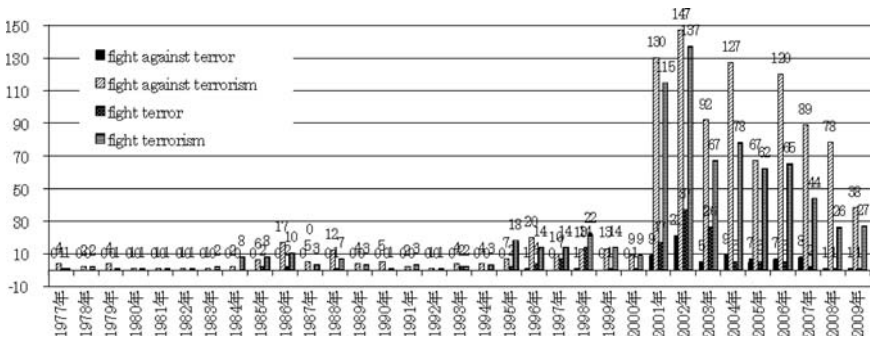

図 5　*fight (against) terror/terrorism* in the *Washington Post* by Year

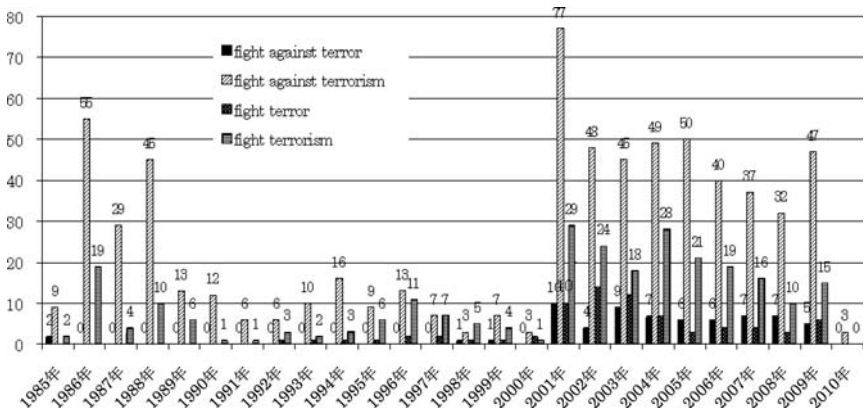

図 6　*fight (against) terror/terrorism* in *The Times* by Year

5.3. その他のテロ集団について

9.11 以降，*terror, terrorism* と言えば，イスラム教過激派によるテロ行為について取り上げられることがそのほとんどのケースとなったが，その他のテロ集団の活動について，9.11 以降 *terror, terrorism* と呼んでいるかという疑問を 4.3 節で提起した。中絶反対派を例に取り，それぞれの新聞アーカイブで *anti-abortionist* と *terror(ism)* が同一記事内で用いられる用例を検索し（“anti-abortionist & terror/terrorism” と入力），2001 年以降の用例を探したが，結果は多く得られなかった（*USA Today*：1 記事，*The Washington Post*：1 記事，*The Times*：3 記事）。実際同一記事内で両語が使用されていても，直接，中絶反対派の過激な暴力行為を *terrorism* と呼んでいる訳ではない記事もあるので，内容確認に注意が必要である。(9) に *The Times* の例を挙げる。

(9)　… there have been more than 6,000 “**acts of terror**” committed in the past 25 years by **anti-abortionists**. (*The Times*, 2007)

また，(10) の *USA Today* の記事では，中絶反対派を含む暴力行為に訴える団体を “domestic terrorists” と呼び，彼らの行動を「国内テロ」として，「国際テロ」と区別をしている。

(10)　But some of the alleged **domestic terrorists** who have been arrested had ambitious plans. The people and groups range from white supremacists, anti-government types and militia members to eco-terrorists and people who hate corporations. They include violent anti-abortionists and black and brown nationalists who envision a separate state for blacks and Latinos. And they have been busy. (*USA Today*, 2004)

5.4. 調査結果

新聞アーカイブによる調査の結果，4.3 節で挙げた疑問については（11）のように回答することができる。

（11）
a. アーカイブごとに細かい差異はあるものの，Google 検索で見られた *terror* と *terrorism* の使用の差と同様の傾向が新聞アーカイブでも見られた。
b. *war on terror* という表現については遅れたピーク，近年になってからの逆転現象が見られた。
c. 2004 年をピークに，*war on terror* の使用回数は減少傾向にあり，
d. 2009 年もその傾向が続いている。
e. 1980 年代にも *war on terrorism* という表現が使用されていたことが確認されたが，米紙では 1990 年代のクリントン政権中により多く使われており，特にレーガン政権で用いられた表現というわけではない。*The Times* では 1980 年代の *fight against terrorism* の使用が米紙よりも多く見られたが，これらは国内紛争，あるいはヨーロッパ内でのテロ行為やその防止策についての記事であった。
f. 中絶反対派の爆破行動などに対して，*terror/terrorism* が全く使用されなくなったわけではない。今回の調査では用例を十分に得ることができなかった。

6 節では，新旧 2 つのコーパスを用いて，単なる頻度だけではなく，詳細な語法や意味について，9.11 以前・以降の変化を探る。

6. コーパスによる意味・語法調査

6.1. 使用したコーパス・検索・分析ツール

コーパス調査では，単にその語句が使用される頻度だけでなく，どのような語と共起し，どのような語法で，どの意味で用いられているのかを詳細に調べることができる。本節のデータの検索・分析には Sketch Engine を使用した。Sketch Engine とは，ウェブベースの多言語に対応したコーパス作成･検索･分析ツールで，コンコーダンサーの機能はもちろんのこと，いくつかのコロケーション指標となる統計値と共に共起語のリストを作成する Collocation，後述の文法パタンによりその語の使われ方を描き出す Word Sketch，2 語間の使用の差を文法関係により描写する Sketch-Diff，文法関係の描写から類語を推定するツール Thesaurus などのコーパス分析機能を備えている（Kilgarriff et al., 2004）。また，WebBootCat により，ウェブを巡回によりある語句をキーワードとしたコーパスを作成することも可能である（Baroni et al., 2006）。現在 Sketch Engine で使用可能なコーパスは 24 種類あり（図 7），その中で英語のものは，British Academic Spoken English Corpus（BASE，1,252,256 語），British Academic Written English Corpus（BAWE，8,336,262 語），British National Corpus（BNC, 112,181,850 語），ukWaC（1,526,599,198 語）である。

Preloaded corpora

Corpus name	Language	Size
Arabic web corpus	Arabic	174,239,600
Chinese GigaWord 2 Corpus: Mainland, simplified	Chinese, Simplified	250,124,230
Internet-ZH	Chinese, Simplified	277,931,664
Chinese GigaWord 2 Corpus: Taiwan, traditional	Chinese, Traditional	455,526,209
Dutch web corpus	Dutch	127,838,255
British Academic Spoken English Corpus (BASE)	English	1,252,256
British Academic Written English Corpus (BAWE)	English	8,336,262
British National Corpus	English	112,181,850
ukWaC	English	1,526,599,198
French web corpus	French	126,850,281
deWaC	German	1,627,169,557
GkWaC	Greek	149,067,023
HindiWaCBing	Hindi	31,355,212
IGBO corpus	Igbo	8,886
itWaC	Italian	1,909,535,703
JpWaC	Japanese	409,384,405
WBC-Per	Persian	6,375,735
Cetenfolha, Cetempublico	Portuguese	66,319,147
Romanian web corpus	Romanian	53,457,522
Russian web corpus	Russian	187,965,822
Fida PLUS 620m	Slovenian	738,503,145
Spanish web corpus	Spanish	116,900,060
Swedish web corpus	Swedish	18,080,394
TeluguWaC	Telugu	4,697,932

図 7　Sketch Engine で使用可能なコーパス一覧

本研究では BNC と ukWaC の 2 つのコーパスを使用した。BNC は，書き言葉，話し言葉両方のイギリス英語を集めた 1 億語から成るコーパスで，可能な限り幅広く現代イギリス英語を代表するように設計された。1 億語の内訳は約 90% が書き言葉，10% が話し言葉で，1985 年から 1990 年までに出版され，記録され，あるいは話されたテクストが集められている。ukWaC は 2007 年に作成された 15 億語を有する巨大コーパスで，すべてのテクストはウェブ巡回により .uk ドメインから集められ，TreeTagger を用いてタグ付け・レマ化がされている（Ferraresi et al. 2008）。どちらもイギリス英語を中心とした構成であるが，BNC は主に 1980 年～ 1990 年代のテクストであるため，当然のことながら 2001 年同時多発テロ以降のテクストは含まれない。一方，2007 年にウェブ上で誰もが自由にアクセス可能なページを巡回して作成された ukWaC は 2001 年同時多発テロ以降のテクストを多く含むと推定される。この二つを比較することで，*terror*，*terrorism* やこれらを含む表現の使用実態の変化，特に *terror* の用法の近年の変化を明らかにできると考えた。この 2 つのコーパスの差については Ferraresi et al.（2008）で論じられ，ukWac は“Web”，“Education”，“Social sphere”の分野の割合が BNC より多く，「現在」により強い関心が見られる，BNC には“fiction”や“spoken”の割合が多いなど，多少の構成の違いは見られることがわかっているが，今回対象とした語の用法の比較に大きく

影響するものではないと考える。

6.2. BNC, ukWaC における各表現

まず，9.11 以前のテクストから構成されている BNC ではどのように *terror*, *terrorism* が用いられているのか，検索を行った。新聞アーカイブで検索した各表現の使用頻度は表 8 に示す。

表 8　*terror/terrorism* in BNC and ukWaC

Total	BNC	ukWaC	Total	BNC	ukWaC
terror	1556	23930	fight against terror	0	82
terrorism	689	33678	fight against terrorism	19	742
war on terror	0	2876	fight terror	1	106
war on terrorism	1	1886	fight terrorism	8	635

BNC では *war on* … や *fight (against)* … という表現の頻度は非常に低い。その中でも，*fight against terrorism*，*fight terrorism* の使用が認められる点は *The Times* での 2001 年以前の使用実態と一致する。これらの多くは IRA 関係の記事である。ukWaC では，*war on terror* という表現でのみ *terror* の使用が *terrorism* を上回り，それ以外では *terrorism* の使用が圧倒的に多いという結果であった。これも *The Times* の 2001 年以降の傾向と一致する。

6.3. BNC と ukWaC の Collocation 比較

Sketch Engine の Collocation 機能を用いて BNC と ukWaC に見られる *terror*, *terrorism*, *terrorist* の共起語のリストを作成した [12]。log-likelihood のスコア順でソートした共起語の上位 30 語を表 9 に示す。BNC と ukWaC で共通する共起語（内容語のみ）は太字，いずれかのコーパスにのみ表れる共起語はイタリックで示した。*terror* の共起語には，両コーパス間で大きな違いが見られる。機能語以外では BNC では *reign* が，ukWaC では *war* が最も強いつながりを見せる。最もよく使われるフレーズが *Reign of Terror*（恐怖政治，恐怖時代）から *War on Terror*（テロとの戦い）へシフトしていることが分かる。それ以外に見られる共起語も BNC では恐怖の感情に関連しているものが多く（*fear, fled, sheer*），人称代名詞（*her, his, I, he, she*）が多く上位にランクインしているのも *terror* が個人的感情について述べるときに用いられていることを表している。一方 ukWaC では *war*，*attacks*，*suspects* などの 9.11 以降の“war on terror”を想起させる語が上位に来ている。

terrorism の共起語（表 10）は BNC と ukWaC とで共通しているものが多

[12] 検索条件は以下の通りである。Attribute: word, In the range from: –5 to: +5, Minimum frequency in corpus: 5, Minimum frequency in given range: 5, Show functions: Freq, T-score, log likelihood, Sort by: log likelihood.

い（*Prevention, against, Act, international, fight, acts, crime*）。これらの語は主に，“The Prevention of Terrorism Act”（テロ防止法），“the fight against terrorism”（テロとの戦い），“acts of terrorism”（テロ行為）などの表現で用いられる。*terrorism* の意味・語法自体には 2 つのコーパス間で大きな変化は見られない。ただ，BNC にだけ見られる共起語としては，*combat*（ukWaC では 33 位），*IRA*，*drug(s)* がある。IRA は当然，イギリスが以前から抱えているテロの脅威であり，薬物（*drug(s)*）はしばしば社会が抱える問題として *terrorism* や環境・移民問題などと並列して取り上げられている。一方 ukWaC では，*war*, *threat* という語が上位に出現し，テロを「未然に防ぐ」（BNC では *Prevention* が上位，ukWaC では 27 位）ところからテロの脅威と「戦う」時代になったことを象徴している。また，*terror* の共起語には見られない *international* が両コーパスともに 12 位にリストされていることから，*terrorism* が以前から現在に至るまで変わらず国際的なテロを言及するのに使われていることを示唆している。

表 9　Collocation of *terror* in BNC and ukWaC

BNC	Freq	T-score	log-likelihood	ukWac	Freq	T-score	log-likelihood
of	756	25.968	3350.142	the	14572	111.51	58329.474
the	841	26.41	3021.916	of	10744	97.461	45551.622
.	778	25.544	2839.158	,	10548	93.483	36377.23
,	737	24.58	2499.887	*war*	2757	52.444	31930.776
and	481	20.344	1779.7	.	8700	83.992	27510.826
in	414	19.128	1660.698	and	7442	79.166	25740.918
a	327	16.518	1065.672	on	4507	64.774	22331.941
to	282	14.673	716.692	in	4773	63.816	16627.606
reign	49	6.996	647.552	"	3227	54.756	15643.177
with	155	11.736	608.457	'	2972	52.771	15067.718
was	154	11.428	511.344	to	4820	61.261	12954.082
her	107	9.957	503.958	a	3632	53.407	9811.292
his	113	10.132	484.025	*War*	949	30.735	9690.986
The	131	10.695	479.096	*against*	1090	32.765	8535.646
'	136	10.71	442.111	The	2314	44.795	8280.17
`	132	10.559	430.87	*attacks*	634	25.147	7188.455
as	114	9.893	391.553	*suspects*	451	21.23	6418.887
had	95	9.151	357.918	that	1942	39.959	5827.261
fear	33	5.724	307.099	**reign**	441	20.988	5709.667
fled	23	4.792	283.524	is	2021	39.66	5216.901
by	82	8.31	262.75	's	1435	35.103	4914.366
I	102	8.915	262.552	:	1490	35.484	4840.354
that	110	9.083	257.743	with	1564	35.858	4669.942
at	79	8.128	247.434	by	1361	33.986	4476.966
he	77	8.044	244.932	as	1280	32.382	3768.917
sheer	21	4.577	238.083	was	1193	31.288	3526.67
for	94	8.505	233.947	for	1434	32.316	3123.197
's	90	8.345	226.952	from	945	27.657	2676.129
"	48	6.644	215.815	*terror*	226	15.015	2576.446
she	56	7.018	207.869	his	677	24.405	2511.376

表 10　Collocation of *terrorism* in BNC and ukWaC

BNC	Freq	T-score	log likelihood	ukWac	Freq	T-score	log likelihood
of	338	17.373	1506.345	the	18213	123.366	66818.265
and	269	15.461	1141.543	of	14128	111.26	57494.364
,	330	16.467	1128.605	,	15152	112.264	53011.454
the	336	16.516	1116.951	.	13367	105.075	44985.022
.	292	15.391	945.104	and	11445	98.92	41874.723
Prevention	46	6.782	837.969	**against**	3808	61.521	36999.282
"	99	9.862	755.273	*war*	3233	56.777	36204.161
against	79	8.851	717.082	to	9268	87.982	30914.104
to	194	12.797	669.451	"	4698	66.15	23103.237
in	152	11.438	548.248	on	4892	66.754	21560.449
Act	45	6.694	464.747	in	6207	72.277	20609.643
international	33	5.73	330.707	**international**	1836	42.72	17791.26
fight	27	5.188	298.83	**fight**	1265	35.521	14359.421
on	66	7.599	243.761	is	4265	60.175	14320.882
acts	19	4.354	222.648	*threat*	1183	34.355	13685.859
combat	16	3.998	207.448	**Act**	1344	36.534	12629.581
IRA	16	3.997	203.96	**acts**	961	30.961	10978.749
that	68	7.455	201.533	'	2596	48.323	10653.992
trafficking	12	3.464	190.872	that	3172	51.794	10423.304
Temporary	11	3.316	183.919	a	4211	55.925	9823.752
drugs	17	4.116	182.097	The	2783	48.507	9106.029
Provisions	11	3.316	181.382	*global*	826	28.648	7860.701
crime	17	4.114	173.235	**crime**	798	28.172	7851.648
by	43	6.102	151.655	as	2155	42.738	7073.144
drug	14	3.734	146.13	terrorism	576	23.974	6750.298
a	74	7.146	145.65	for	2491	43.98	6370.327
'	50	6.376	144.827	**Prevention**	472	21.713	6105.553
The	45	6.141	142.534	with	1966	39.707	5454.897
for	50	6.349	141.346	by	1712	37.729	5267.759
is	52	6.382	136.138	*War*	601	24.391	5165.605

両コーパスに共通して現れる *terrorist* の共起語は *attack(s)*, *against* と少ない（表 11）。BNC では *IRA*，*bomb* が上位，また 28 位には *loyalist* が現れ，*terrorism* の共起語と同じく，IRA によるテロ行為のことを多く言及していることが分かる。BNC では共起語リストの 13 位に表れる *bomb* が ukWaC では 70 位以下まで出現しないのは，もはや *bomb* だけが *terrorist* に関して語られる事象ではないということだろうか。また，ukWaC にのみ現れる共起語としては，*terrorism* の場合と同様，*threat* がある。テロリストは個人ではなく集団で，しかも一つではなく複数あることを示す *groups* が 14 位に , 他に *acts, suspected* が下位にある。27 位と 30 位にはそれぞれ，*September* と *11* がランクインし，月の名前，数字としては飛び抜けて多い頻度を示

表 11　Collocation of *terrorist* in BNC and ukWaC

BNC	Freq	T-score	log-likelihood	ukWac	Freq	T-score	log-likelihood
the	821	26.109	2963.213	the	22802	138.577	86318.212
.	628	22.524	2004.399	attacks	4039	63.531	57092.622
,	582	21.32	1686.584	,	15672	112.413	49258.717
of	447	19.215	1453.219	.	15084	110.913	48608.706
a	379	18.057	1377.348	of	12440	101.817	41656.645
to	385	17.861	1246.22	to	11617	98.9	39859.153
"	137	11.541	912.768	and	11167	95.884	35734.49
in	274	15.098	877.428	a	8721	85.911	29741.788
and	307	15.593	862.589	**attack**	2165	46.475	25065.482
IRA	56	7.48	768.423	in	7316	78.343	24028.338
by	164	12.295	758.489	"	4327	62.789	18929.774
attacks	47	6.849	563.854	*threat*	1390	37.238	16026.435
bomb	45	6.703	552.537	that	4180	59.923	14501.901
attack	52	7.194	527.509	*groups*	1621	40.048	13836.663
'	147	11.236	508.66	by	3087	52.302	11914.789
for	141	10.932	466.369	**against**	1522	38.656	11333.318
The	126	10.483	458.613	are	3074	51.743	11114.438
that	149	11.035	441.552	or	2644	48.55	10426.908
with	124	10.361	439.589	on	3192	51.761	10195.715
on	125	10.344	426.006	*acts*	916	30.218	10037.606
`	129	10.445	422.824	*suspected*	729	26.982	9254.424
were	92	9.154	397.601	as	2728	48.302	9234.461
was	123	10.025	362.401	is	3489	52.261	9148.944
against	53	7.18	352.14	'	2431	46.047	8799.819
activity	38	6.14	346.768	The	2915	49.012	8782.906
had	91	8.949	340.551	for	3191	50.203	8547.681
as	99	9.133	318.952	*September*	1025	31.772	7999.733
loyalist	20	4.471	292.745	have	2105	42.495	7170.834
who	64	7.679	291.252	with	2483	44.884	7126.642
offences	25	4.994	288.859	*11*	877	29.413	7040.034

していることから，いかに *terrorist(s)* が 9.11 同時多発テロと関連づけて用いられているかを示している。

6.4. Sketch-Diff での比較

Sketch-Diff は，ある 2 つの語句が同じ文法パタン [13] を共有しているかどうかで，ある 2 つの語句の類似点，相違点を描き出す機能である。同じ文法パタンで共起する共通の語を common pattern として表示し，ある一方の語にだけ見られるある文法パタンの共起語を only pattern としてそれぞれ示す。common pattern に挙げられ

[13] 文法パタンの定義については，http://trac.sketchengine.co.uk/wiki/WSDefFiles を参照のこと。

る項目の中で特にどちらかの語により強い傾向が見られる場合には，色の濃さでその傾向の強さが表される（図 11 参照）。この common pattern と only pattern から，その語がどのように似ているか，あるいは異なるかを考察することができる。

BNC での *terrorism/terror* には共通項が非常に少ない [14]。共通項のうち，*terrorism* により強い傾向を示すパタンとしては *act of terror/terrorism*，*fight terrorism/terror*, *(The Prevention of) Terrorism Act* があり，*terror* により強い傾向を示すパタンとしては *terror campaign* がある。いずれも *terrorism* と同義で用いられている。

その他の common pattern としては *victim of, wave of, kind of, world of, violence and/or terror, war and terror*[15], *state terror*[16], *bring terror, stop the terror, political terror, terror charge* などがあるが，common pattern だからといってすべてが *terrorism* と同じ意味で用いられているわけではない。表 12 では *terrorism* と *terror* 共通の文法パタンを持つ語を示し，*terror* の頻度のうち，何件が *terrorism* と同義で用いられているかを括弧内に示す。

表 12　Common Pattern between *terrorism* and *terror* in BNC
(First lemma: *terrorism*, Second lemma: *terror*)

Pattern item	Freq.1	Freq.2	Salience 1	Salience 2	**Pattern** item	Freq.1	Freq.2	Salience 1	Salience 2
pp_obj_of-p[17]	**152**	**304**	**4.8**	**4.0**	**object_of**[18]	**124**	**219**	**2.1**	**1.5**
act (6)	26	6	4.3	2.2	fight (1)	8	2	4.4	2.4
victim (2)	6	2	4.2	2.6	state (2)	2	2	2.2	2.2
wave (1)	4	3	3.7	3.2	bring (0)	5	7	1.4	1.9
kind (0)	2	4	0.6	1.6	stop (1)	2	2	1.2	1.2
world (0)	3	3	0.3	0.3	**modifier**[19]	**134**	**362**	**0.8**	**0.9**
and/or[20]	**176**	**306**	**2.3**	**1.6**	political (0)	2	6	0.8	2.4
violence (2)	9	4	5.0	3.8	**modifies**[21]	**60**	**141**	**0.4**	**0.4**
war (0)	5	2	1.9	0.5	act (1)	34	2	4.7	0.6
					campaign (13)	2	15	1.6	4.5
					charge (2)	4	2	2.4	1.4

act of terror, victim of terror, state terror, terror act, terror campaign, terror charge はほとんどの場合が *terrorism* と同義で用いられているが，同じパタンで使用されていても，*kind*

[14] *terror/terrorism* の Sketch-Diff ではより common pattern が少ない。*campaign* が検出されない。
[15] and/or パタンは直前，直後でなくても，カンマで並列されているものも含む。
[16] object of パタンに分類されているが，これは parsing 間違い。*state* は動詞で用いられているのではないので *terror* は目的語ではない。
[17] *terror* が前置詞 *of* の目的語になる前置詞句が修飾する語。
[18] terror を目的語に取る動詞。
[19] terror を修飾する語。
[20] and または or を伴った terror の並列関係にある語。
[21] terror が修飾する語。

of terror, world of terror, bring terror のように *terror* が *terrorism* と同義で用いられていない語もある（図 8）。

ASV	of the Great . I read them with a kind of	**terror**	. The hexagram represents a beam that
CRE	to disbelief, and disbelief to a kind of	**terror**	, as though this fording was unthinkable
H8N	sky. But then a different kind of	**terror**	came in daytime, starting on the second
HJH	sky. But then a different kind of	**terror**	came in daytime, starting on the second

図 8　*kind of terror* のコンコーダンス（BNC）

bring の目的語という共通パタンの例では，実際のコンコーダンスを見てみると，異なる意味で，異なる使われ方がされているのがわかる。*terrorism* は必ず *bring terrorism to an end* というフレーズで使用されている（図 9–10）。

A08	bachelor, he wrote, but rather of bringing the	**terror**	to the surface. The terror and the desire
AAC	artillery. For me, the daybreak brings new	**terrors**	. Panama is a small place where everyone
EWC	filled them with relief and joy, brought only	**terror**	. They cringed away and none said a word
HAF	in London's Waterloo last night, bringing	**terror**	and chaos to commuters and theatregoers
K3K	of the country. The blast brought	**terror**	to hundreds of residents near the gas depot
K4S	double glazing salesmen whose methods brought	**terror**	to householders has been sacked.
K4W	Fence demand: Vandals have brought	**terror**	to a public walkway in Loftus. Now people

図 9　*bring terror* のコンコーダンス（BNC）

A7W	went on: `Our overriding aim is to bring	**terrorism**	to an end so that the people of Northern
HHV	Government remain entirely committed to bringing	**terrorism**	to an end through the vigorous and impartial
HHV	continue to meet their responsibility to bring	**terrorism**	to an end within the rule of law by pursuing
HHV	Government's central purpose must be to bring	**terrorism**	to an end. Terrorism will come to
HHW	that that is a critical factor in bringing	**terrorism**	to an end. Mr. John D. Taylor (Strangford

図 10　*bring terrorism* のコンコーダンス（BNC）

BNC で使用されている *terror* は心理的な感情を指すものが多いことがここまでで明らかであるが，心理的「恐怖」の意味でなく，テロ行為を指すものであっても，*international* や *global* などの共起語は見られず，現在テロと呼ばれる国際的なテロ集団による破壊行為ではなく，国内の政治体制によるもの，あるいは個人の犯罪行為（誘拐など）のようなものを指していることが多い。

一方，terror only pattern の中にリストされていて，*terrorism* と用法を同じくしないものでも，*terrorism* と同義で用いられているものがある。特にその傾向が強く見られたのは *terror* がその後の名詞の修飾語（modifies）として使用される場合（表 13）である（*terror alert, terror tactic, terror victim, terror attack* など）。これは先に挙げた新聞アーカイブの用例や OED2v4 の記述にも見られる用法である。

表 13　*terror* only pattern: "modifies" in BNC

terror only pattern	freq.	Salience
modifies	**141**	**0.4**
alert (3)	3	7.5
ordeal (3)	3	6.4
tactic (8)	8	6.2
gang (7)	7	6.1
terror (0)	2	4.8
raid (2)	2	4.0
bomb (2)	2	3.3
victim (3)	3	3.2
weapon (3)	3	3.2
offence (2)	2	2.7
drive (2)	2	2.7
attack (2)	3	2.3

ukWac では *terror/terrorism* の common pattern が，BNC のよりもパタン数においても，パタンに分類される項目数においても多く見られる。common pattern のスクリーンショットを図 11 に示す。*terrorism* により強い傾向が見られるものには and/or: *WMD*, ***crime***, *warfare*, *terrorist*, *weapon*, object_of: ***combat***, *defeat*, *fight*, *eradicate*, *condemn*, *incite*, *sponsor*, ***tackle***, *prevent*, *breed*, *justify*, *oppose*, *commit*, *support*, a_modifier: *counter*, *Islamic*, ***international***, *global*, *nuclear*, *urban*, *military*, modifies: *financing*, *offence*, *expert* があり [22]，このパタンで用いられている *terror* のほとんどは *terrorism* と同様テロ活動を指している。*terror* により強い傾向が見られるものには subject_of: *suspect*, and/or: *fear*, object_of: *unleash*, *spread*, *inspire*, a_modifier: *psychological*, modifies: *suspect*, *alert*, *attack* があるが，これらの語の中には心理状態を表す *terror* の用例が多く含まれる傾向がある項目がある（*fear and/or terror*, *spread terror*, *inspire terror* など）。BNC の文法パタンと同様，同じ文法パタンを示すからと言って，必ずしも同じ意味で用いられているとは限らないということを念頭に置いて，個々の用例に当たる必要がある。

terror only pattern に見られる modifier としての *terrorism* と同義の *terror* の用法は先述の BNC などの場合と同様，*tactic*, *bomb(ing)*, *raid*, *ordeal*, *gang* などが見られる。*terrorism* は限定詞的には用いられず，後の名詞を修飾する場合には *terrorist* あるいは *terroristic* を用いるのが通例であるため，terror only pattern に分類されるのだ。

このように Sketch-Diff は 2 語の間の共通点・相違点を「文法パタン」という観点から描き出してくれる，非常に有用な機能であるが，注意すべき点がいつくかある。ひとつはこれまでにすでに指摘したように，文法パタンが同じだからといって同じ意味で使用されているとは限らないため，用例の確認が必要であると言うこと，もう一つは First lemma, Second lemma の決定の仕方である。BNC では *terrorism* を

[22] 太字は他よりさらに強い傾向を示す

First lemma に，*terror* を Second lemma に，ukWaC ではその逆の順番で入力する方が，他方の場合より多くの common patter が示される[23]。頻度の少ないものを First lemma に入力し，Sketch-Diff を実行する方がより多くの common pattern を検出することができ，有効な用例もより多く見いだすことができる。

terror/terrorism preloaded/ukwac freq = 19446/28826

Common patterns

terror 6.0 4.0 2.0 0 -2.0 -4.0 -6.0 terrorism

pp_against-i	102	92	16.4	10.6
civilian	9	10	4.0	4.2
citizen	5	5	0.9	0.9

predicate_of	156	542	3.2	8.1
weapon	6	10	0.5	1.2
war	12	15	0.4	0.7

subject_of	2010	4005	2.1	2.9
suspect	77	7	7.2	3.6
threaten	8	26	2.4	4.1
strike	17	8	3.6	2.4
continue	23	43	1.6	2.5
begin	35	15	2.3	1.0
mean	9	27	0.2	1.8
charge	5	6	1.2	1.5
hit	5	6	0.7	0.9
exist	7	6	0.6	0.4
seem	11	11	0.5	0.5
come	25	21	0.3	0.1

and/or	3463	5923	2.1	2.6
WMD	6	72	5.2	8.3
crime	20	500	1.7	6.3
intimidation	21	10	6.2	4.8
tyranny	20	10	6.2	4.8
violence	152	193	5.6	5.9
terrorism	20	75	3.9	5.8
warfare	7	45	3.1	5.7
assassination	7	16	4.6	5.5
aggression	7	26	3.7	5.4
repression	15	17	5.4	5.3
genocide	11	15	5.1	5.3
fear	125	16	5.2	2.2
terror	31	20	5.1	4.4
terrorist	5	31	2.5	5.0
hatred	21	14	5.0	4.3
dictatorship	12	8	5.0	4.2
war	104	298	3.5	5.0
murder	44	51	4.8	4.9
bloodshed	5	6	4.8	4.6
oppression	13	11	4.8	4.3
persecution	14	8	4.8	3.8
weapon	9	117	1.0	4.7
bombing	6	22	2.9	4.7
corruption	8	18	3.4	4.4
destruction	35	30	4.2	3.9

object_of	2974	5798	1.8	2.4
combat	29	642	5.6	9.9
defeat	19	194	5.0	8.1
fight	106	633	5.4	7.9
eradicate	5	70	4.1	7.5
condemn	9	123	3.9	7.5
unleash	35	5	7.1	3.9
incite	5	35	4.7	7.0
renounce	10	33	5.7	6.9
sponsor	17	123	3.9	6.6
tackle	8	158	1.8	6.1
perpetrate	6	12	5.1	5.5
confront	10	28	4.0	5.3
spread	54	6	5.0	1.8
prevent	10	154	1.1	5.0
breed	6	27	2.8	4.9
justify	8	38	2.6	4.8
oppose	7	38	2.4	4.8
stop	27	100	2.6	4.5
commit	9	43	2.2	4.4
inspire	26	5	4.1	1.6
export	8	9	4.0	3.9
support	30	235	1.0	3.9
end	15	42	2.2	3.6
overcome	15	5	3.5	1.9
practise	5	11	2.5	3.5

図 11-1　Common Pattern between *terrorism* and *terror* in ukWaC
(First lemma: *terror*, Second lemma: *terrorism*)

[23] ukWaC で *terrorism/terror* で Sketch-Diff を実行すると，object-of: *incite*, subject-of: *charge*, pp-as-i: *tactic*, *weapon*, modifies: *financing*, n-modifier: *anti-* が common pattern として表示されない。

pp_as-i	114	158	2.2	2.2
tactic	5	8	2.2	2.9
weapon	5	6	0.2	0.5

a_modifier	2481	3825	1.4	1.6
counter	5	84	4.5	8.3
Islamic	28	181	5.1	7.7
international	31	1328	1.7	7.1
indiscriminate	12	8	6.5	5.5
Palestinian	22	61	5.0	6.4
global	42	358	3.2	6.3
nuclear	19	208	2.7	6.1
mass	28	39	4.5	4.9
Israeli	19	25	4.5	4.8
psychological	28	5	4.4	1.9
extreme	19	6	3.9	2.2
Muslim	6	14	2.5	3.6
urban	5	23	1.1	3.3
systematic	6	6	2.8	2.7
military	5	24	0.4	2.7
individual	17	33	1.2	2.1
political	27	34	1.6	1.9
religious	5	10	0.5	1.5
internal	5	9	0.6	1.4
such	60	33	0.9	0.0

modifies	3757	2323	1.3	0.6
suspect	433	100	9.4	7.4
alert	62	9	7.2	4.5
attack	688	24	6.8	1.9
financing	5	24	3.0	5.4
threat	120	73	5.0	4.3
offence	5	49	0.8	4.2
legislation	28	83	2.4	3.9
arrest	13	5	3.8	2.5
bill	26	54	2.6	3.7
expert	10	60	0.9	3.5
act	23	46	2.1	3.1
law	120	61	3.0	2.0
charge	31	50	1.9	2.6
investigation	7	22	0.6	2.3
fear	9	13	1.4	2.0
incident	6	6	0.7	0.7

pp_on-i	121	105	1.0	0.6
scale	10	15	0.9	1.5

n_modifier	876	1236	0.8	0.8
Islamist	33	35	8.2	8.1
anti-	5	10	6.5	7.2
IRA	10	31	4.9	6.5
extremist	7	18	4.5	5.9
loyalist	8	7	5.7	5.4
state	114	252	2.9	4.0
fight	6	20	1.8	3.5
noise	7	5	1.2	0.7

図 11-2　Common Pattern between *terrorism* and *terror* in ukWaC
(First lemma: *terror*, Second lemma: *terrorism*)

この 2 つのコーパスの Sketch-Diff から 9.11 前後の *terror* の意味用法に大きな変化があることは明らかである。9.11 以前の BNC での *terror* の用法には心理状態を表す意味で用いられるものが多く，国内の政治体制によるものや，個人の（しかしながらセンセーショナルな）犯罪行為などに用いられる例が多く含まれるのに対して，ukWaC では common pattern の a_modifier に挙げられている語を見ると明らかなように，国際的（*international/global*）な，*Islamic, Islaeli, Muslim, Palestinian* といった中東の国々を含めた宗教的（*religious*）な動機による，無差別（*indiscriminate*），大量（*mass*）の被害をもたらす，過激な（*extreme*）組織的（*systematic*）テロの台頭とそれに対抗するための対（*counter*）テロ対策が多く語られている。

6.5. Thesaurus

Thesaurus 機能とは“shared triples”という考え方に基づいて，類語の可能性のある語を導き出す便利な機能である（Kilgariff 2003）。“shared triples”というのは，キーワードと同じ文法パタンの共起語を共有しているかどうか，まだそれがどれほどの頻度で用いられているかどうかで，ある語がどれだけキーワードに類似しているの

かを決めるものである。たとえば *beer* と *wine* は〈*obj*, drink, …〉（＝動詞 drink の目的語として用いられる）という共通の 3 項パタンを持っている。この 3 項パタンを多く共有すればするほど，そして，そのパタンの頻度が高ければ高いほど，その 2 語は類似していると考える。つまり，同じ文法パタンの共起語をどれくらい持ち，どれくらいの頻度があるかで判断し，結果を返すので，必ずしもリストにあるものが意味的に類似しているとは限らない。実際には全く逆の意味を持つ反意語などもリストに現れる。あくまで文法・共起語パタンの類似性から，類語の可能性があるものを導き出しているだけで，意味の類似性を判断するのは人間の目である。

BNC，ukWaC で *terror*, *terrorism* について Thesaurus 機能を実行した結果を表 14 に示す。BNC で Thesaurus を実行した結果（表 14 左），*terror* の類語リストに *terrorism* は含まれず，*terrorism* の類語リストに *terror* はない。*violence* が下位に現れる以外，共通して現れる語もほとんどない。BNC では感情を表す語が *terror* の類

表 14　Thesaurus lists for *terror* and *terrorism* in BNC and ukWac

# Corpus: BNC # Lemma: terror # Frequency: 1556		# Corpus: BNC # Lemma: terrorism # Frequency: 689		# Corpus: ukWaC # Lemma: terror # Frequency: 19446		# Corpus: ukWaC # Lemma: terrorism # Frequency: 28826	
panic	0.211	trafficking	0.196	horror	0.313	violence	0.314
horror	0.205	espionage	0.146	**terrorism**	0.3	**terror**	0.3
rage	0.179	sabotage	0.142	fear	0.28	racism	0.295
misery	0.161	treason	0.118	violence	0.266	crime	0.276
joy	0.153	hooliganism	0.114	despair	0.247	abuse	0.272
anger	0.152	smuggling	0.109	anger	0.245	terrorist	0.27
excitement	0.15	warming	0.107	hatred	0.233	corruption	0.25
fear	0.147	theft	0.106	frustration	0.226	fraud	0.233
sadness	0.146	truancy	0.104	panic	0.226	discrimination	0.23
despair	0.14	fraud	0.102	oppression	0.22	bombing	0.23
shock	0.139	fascism	0.101	misery	0.218	aggression	0.225
hatred	0.135	bombing	0.099	anxiety	0.214	poverty	0.221
surprise	0.133	conspiracy	0.099	tragedy	0.213	theft	0.22
disappointment	0.129	corruption	0.097	aggression	0.213	conflict	0.217
agony	0.127	subversion	0.095	confusion	0.213	murder	0.217
grief	0.125	violence	0.092	persecution	0.212	oppression	0.213
embarrassment	0.122	homelessness	0.091	grief	0.211	threat	0.21
pity	0.12	abuse	0.089	evil	0.208	warfare	0.204
anxiety	0.118	intimidation	0.088	repression	0.206	persecution	0.201
fury	0.115	terrorist	0.088	suffering	0.202	injustice	0.197
anguish	0.114	communism	0.086	chaos	0.202	repression	0.196
dismay	0.113	burglary	0.085	cruelty	0.201	destruction	0.194
repression	0.111	crime	0.083	excitement	0.201	killing	0.194
bitterness	0.11	injustice	0.081	emotion	0.2	harassment	0.193
hate	0.109	aggression	0.081	poverty	0.198	nationalism	0.191
frustration	0.109	racism	0.078	destruction	0.198	attack	0.19
pain	0.107	cruelty	0.078	sadness	0.197	invasion	0.189
jealousy	0.106	poverty	0.075	murder	0.196	revolution	0.189
confusion	0.105	killing	0.074	abuse	0.196	exploitation	0.188
humiliation	0.104	outrage	0.073	hostility	0.192	assault	0.187

語の上位を占め（*panic*, *horror*, *rage*, *misery*, *joy*, *anger*, *excitement*, *fear*, *sadness*, *despair* など），この語が他の人の心理状態を表す語と同じ使われ方をしていることがわかる。一方，*terrorism* では上位に *trafficking, espionage, sabotage, treason, hooliganism, smuggling, warming* などテロと同様に問題行為と見られる語が並んでおり，これらの問題行為と同様の使われ方をしていることがわかる。BNC ではこの 2 つの語の振る舞いが全く異なることを明白に示している。

一方，ukWaC で Thesaurus を実行した結果（表 14 右），*terror*, *terrorism* はそれぞれの類語リストで相互に 2 位となっており，使われ方が非常に似ているのがわかる。同一コーパス内で *terror* と *terrorism* の類語を比較すると，共通するものは多い（*violence, racism, crime, abuse, corruption, bombing, aggression, poverty, conflict, murder, oppression, threat, persecution, injustice, repression, destruction* など）。*terror* と *terrorism* が ukWaC ではいかに同じような振る舞いを見せているのかを示している。

2 つのコーパス間で *terror* の類語リストを比較してみると，上述の通り，BNC では感情を表す語が *terror* の類義の上位を占めるが，ukWac では *violence, oppression, persecution, evil, destruction* など，BNC には見られなかった語が上位に来ている。これらは *terror* の心理的恐怖の意味より，テロ行為を想起させる語ばかりである。しかし，ukWaC においても *terror* の類語リストには，上位に感情を表す語が多いことから（*horror*, *fear*, *violence*, *despair*, *anger*, *hatred*, *frustration*, *panic* など），*terror* の本来の意味である心理的恐怖を表す用法が失われたわけではなく，それに加えて *terrorism* と同義のテロ行為を指す頻度が高くなってきていることを示している。

2 つのコーパス間で *terrorism* の類語リストを比較してみると，当然予測されるとおり，両コーパスに類語として挙げられている語は多く（*theft, fraud, bombing, violence, crime, abuse, corruption, aggression, poverty, injustice*），このうち *poverty* 以外は *terrorism* の一側面を表している語と言える。このことは基本的に *terrorism* の意味が変化していないことを示唆している。しかし，*terrorism* にも小さいながら変化は見られる。上述の通り，BNC にはテロと同様に問題行為と見られる語（*trafficking, espionage* など）テロと同様に問題行為と見られる語が上位に並んでいが，これらの語は ukWaC では見られない。テロがもはや社会での問題行為の 1 つではなく，単独で飛び抜けて重要な問題として扱われていることの現れと言えよう。また，ukWaC にのみ現れる語としては，*terror, conflict, oppression, threat, warfare, persecution, repression, destruction, nationalism, attack, invasion, revolution, exploitation* などがある。*terror* 以外はリストの下位のほうに現れる語が多い。BNC のようにテロ以外の別の問題行為と同じ振る舞いを見せるのではなく，テロの原因や結果に見られるもの，特にテロ攻撃の報復のための戦争に関わる語と同じような振る舞いを見せていると言えよう。

本節では Thesaurus 機能を使用して，*terror* と *terrorism* の類語の可能性のある語のリストを検討し，*terror* が“war on terror”以降 *terrorism* に類似してきたこと，また，*terrorism* にも小さな変化が見られることを示した。

7. まとめ

本稿では *terror* の意味・語法の変化について論じた。*terror* の最も古い意味である「非常な恐怖」の意味から派生し，今日のように *terrorism* と同義で用いられるようになるまでには様々な変化があった。辞書による調査では，一般的に「恐怖状態を引き起こす行為」という意味から，特に政治的に用いられるようになったのはフランス革命時の“The Terror”「恐怖政治」で，その後，独裁政権による人民の抑圧を“reign of terror”と呼んだ。さらに現体制による *terror* から，反体制派による体制崩壊を目指す *terror* への変身をとげるところまでを明らかにした。新聞アーカイブ，コーパスでは，個人的な活動から組織的活動へ，国内におけるテロから国際テロへと範囲を広げていく様子も捉えた。

新聞アーカイブによる調査では，2001 年「対テロ戦争」開始以前と以降で使用頻度，使用される意味が大きく異なること，*war on terror* と *war on terrorism* の使用ピークの違い，英米紙で使用の傾向がことなることなどを，年代を追って解明した。

コーパスによる調査では，心理的恐怖を表す意味で多く使われていた *terror* が，“war on terror”開始以降，その意味に加えて，*terrorism* と同義で用いられることが多くなり，共起語，語法，類語が大きく変化していることを指摘した。これまで *terrorism* と同義で用いられることが知られていた修飾語としての *terror* の用法に加えて，様々な動詞の目的語となり，動作主となり，前置詞句を形成しながら *terrorism* と同じ文法パタンで使用されている様子を描き出し，いかに *terror* が *terrorism* に意味的に近くなっているかを明示した。

ただ，本研究で十分に解明できなかったのは，2001 年同時多発テロ以降，イスラム過激派以外の，従来からテロリストと呼ばれていた集団による行為が現在どのように扱われているかという疑問についてである。Hewitt（2002）ではテロ集団として Islamic fundamentalists, white and black racists, black nationalists, revolutionary communists, neo-Nazis, militant Jewish groups, anti-abortionists, emigre groups について論じている。Islamic fundamentalists 以外のこれらの集団の活動のうち，どれくらいがテロ行為として報道されているか，今後調査を進め，9.11 以前と以後で，terrorism, terrorist, terror が指す行為・集団がどのように変化しているか解明していきたい。

参　照　文　献

Baroni, Marco, Adam Kilgarriff, Jan Pomikálek and Pavel Rychly (2006) WebBootCaT: instant domain-specific corpora to support human translators. *Proceedings of the 12th EURALEX International Congress* 123–131.

Crichton, Jonathan (2007) Doing battle with a noun: Notes on the grammar of ‘terror.’ *Australian Review of Applied Linguistics* 30(2): 19.1–19.18.

Ferraresi, E. Zanchetta, Marco Baroni and Silvia Bernardini (2008) Introducing and evaluating ukWaC, a very large web-derived corpus of English. *Proceedings of the 4th Web as Corpus Workshop—Can we beat Google?* 47–54.

Hewitt, Christopher (2002) *Understanding Terrorism in America: From the Klan to Al Qaeda.* London: Routledge.

Kilgarriff, Adam (2003) Thesauruses for Natural Language Processing. *Proceedings of International Conference on Natural Language Processing and Knowledge Engineering 2003* 5–13.
Kilgarriff, Adam, Pavel Rychly, Pavel Smrz, David Tugwell (2004) The Sketch Engine. *Proceedings of the 11th EURALEX International Congress* 105–115.
Lakoff, George (2005) War on terror, rest in peace. Alternet. Available from: http://www.alternet.org/story/23810/.
Numberg, Geoffrey (2004) How Much Wallop Can a Simple Word Pack? The New York Times. Available from: http://nytimes.com/2004/07/11/weekinreview/11word.html.
Thornton, Thomas (1964) Terror as a weapon of political agitation. In: Harry Eckstein (ed.) *Internal war: problems and approaches*, 71-99. Glencoe: Free Press of Glencoe.

Dictionaries:
OED2v4: *Oxford English Dictionary*, 2nd ed. ver. 4. (2009) Oxford: Oxford University Press.
SOED: *Shorter Oxford English Dictionary*, 6th ed. (2007) Oxford: Oxford University Press.
NOAD: *New Oxford American Dictionary*, 2nd ed. (2005) Oxford: Oxford University Press.
ODE: *Oxford Dictionary of English*, 2nd ed. (2003) Oxford: Oxford University Press.
OALD: *The Oxford Advanced Learner's Dictionary*, 7th ed. (2005) Oxford: Oxford University Press.
LDOCE: *Longman Dictionary of Contemporary English*, 5th ed. (2009) Harlow: Pearson Education.
LAAD: *Longman Advanced American Dictionary*, 2nd ed. (2007) Harlow: Pearson Education.
MED: *Macmillan English Dictionary*, 2nd ed. (2007) Oxford: Macmillan Education.
CALD: *Cambridge Advanced Learner's Dictionary*, 3rd ed. (2008) Cambridge: Cambridge University Press.
CDAE: *Cambridge Dictionary of American English*, 2nd ed. (2008) Cambridge: Cambridge University Press.
COBUILD: *Collins Cobuild English Dictionary for Advanced Learners*, 5th ed. (2006) Boston: Thomson ELT.
MWLD: *Merriam-Webster's Advanced Learner's Dictionary*, illustrated ed. (2008) Springfield: Merriam-Webster.
リーダーズ:『リーダーズ＋プラス』（『リーダーズ英和辞典』第 2 版（1999）＋『リーダース・プラス』（1994））（2000）東京：研究社.
ランダムハウス：『小学館ランダムハウス英和大辞典』第二版（1993）東京：小学館.
ジーニアス大：『ジーニアス英和大辞典』（2001）東京：大修館書店.
プログレ 4：『プログレッシブ英和中辞典』第 4 版（2002）東京：小学館.
アンカーコズミカ：『アンカーコズミカ英和辞典』（2007）東京：学研.
新グローバル 2：『新グローバル英和辞典』第 2 版（2001）東京：三省堂.
ウィズダム 2：『ウィズダム英和辞典』第 2 版（2006）東京：三省堂.
ロングマン英和：『ロングマン英和辞典』（2007）東京：ピアソン・エデュケーション.
ジーニアス 4：『ジーニアス英和辞典』第 4 版（2006）東京：大修館書店.

Websites:
Sep.25 U.S., Japan to Fight Terrorism Together on Many Fronts (Bush-Koizumi September 25 remarks at White House) *Washington File*. (2001) Available from: http://usinfo.org/wf-archive/2001/010925/epf202.htm
Oct.22 President Bush and Japan's Koizumi Meet in Shanghai (Leaders affirm determination to cooperate against terrorism) Washington File. (2001) Available from: http://usinfo.org/wf-archive/2001/011022/epf101.htm
Global War On Terror' Is Given New Name. *The Washington Post*. (2009) Available from: http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2009/03/24/AR2009032402818.html.
How America Became a Surveillance State. *TIME* (2010) Available from: http://www.time.com/time/nation/article/0,8599,1973131,00.html.
TERROR'S VENUE. *TIME*. (1996) Available from: http://www.time.com/time/magazine/article/0,9171,984937,00.html.

Anti-abortionist who set off Olympic nail bomb is jailed for life The Independent. (2005) Available from: http://www.independent.co.uk/news/world/americas/antiabortionist-who-set-off-olympic-nail-bomb-is-jailed-for-life-503931.html

US anti-abortionists' terror campaign claims another life. *Direct Action*. (2009) Available from: http://directaction.org.au/issue13/us_anti_abortionists_terror_campaign_claims_another_life

執筆者連絡先：
〒 603-8555 京都市北区上賀茂本山
京都産業大学文化学部
makimik@cc.kyoto-su.ac.jp

［受領日　2010 年 3 月 31 日
最終原稿受理日　2010 年 6 月 7 日］

Absract

New Usages and Meanings of *terror*: An Analysis based on Newspaper Archives and Corpora

Makimi Kano
Kyoto Sangyo University

This article discusses the current usages and meanings of *terror* as well as changes over time, particularly in the past few decades. In recent news articles, the word *terror* is often used to refer to attacks by international terrorist groups whose main purpose is to create chaos. Derived from the original meaning of "intense fear," *terror* has gone through various changes before coming to be used as a synonym of *terrorism*. These changes are described, based on newspaper archives and corpora as well as dictionary definitions and citations. Starting as an abstract noun, over time the word came to have a more concrete meaning, "the action of causing dread," and then became more specifically political in its sense when it was used in contexts such as "reign of terror." Later, the focus of the act shifted from governmental to agitational, from personal to organizational, and from domestic to international. It is pointed out that these shifts can be observed especially clearly after the start of the "Global War on Terror" promoted by the Bush administration. Corpus analyses of the collocations, grammar patterns, and synonyms of *terror* show clearly that the word is becoming closer in usage and meaning to *terrorism* and nearly interchangeable with it.